

# 令和3年度 地域に飛び出せ大学生！

## おかやま元気！集落研究・交流事業 取組概要一覧

### 地域に飛び出せ大学生！おかやま元気！集落研究・交流事業とは？

おかやま元気！集落における諸課題について、地域と協働して現状把握、課題分析を行い、課題解決や地域活性化に向けた実践的な手法の検討に取り組む大学を支援する制度です。

令和3年度は5大学7研究室が取り組みました。

### 目次

- 1 津山市上加茂地域（物見地区） × 美作大学（小坂田・堀川研究室）
- 2 笠岡市六島 × 美作大学（有岡研究室）
- 3 真庭市二川地域 × 岡山理科大学（黒田研究室・大藪研究室）
- 4 矢掛町江良集落 × 岡山大学（地域総合研究センター）
- 5 久米南町下鞆地区 × 中国学園大学（佐々木ゼミ）
- 6 久米南町上弓削地区 × 岡山大学（資源管理学ユニット）
- 7 美咲町南和気地区 × 環太平洋大学（早田剛ゼミ）

## 1. 津山市上加茂地域(物見地区)

### × 美作大学(小坂田・堀川研究室)

#### 趣旨・目的

2018年度に策定した「地域活性化計画『かがやく未来! ものみりよく計画』」の中間年度になることから、計画後半に向けて振り返りと見直しを行う。

#### 主な取組

##### 住民との交流

山菜採り体験と天ぷらづくり、トマトケチャップづくり、クリスマス会などを通じて地域住民と交流した。



##### ものみ防災訓練

消火器や放水訓練、AED・心肺蘇生訓練に加えて、学生による防災クイズを実施した。



##### アンケート調査

今年度の活動に対する住民の意見や感想を集めるとともに、昨年設置した見守りの「緑旗」の活用効果や、防災意識の変化、地域の居場所づくりや特産品づくりへの意向などを調査した。



#### 成果

学生による取組が地域を元気にする取組として多くの住民に好意的に受け止められていることがアンケート結果からわかった。

また、昨年設置した見守りの「緑旗」については住民の関心が高く、地域の生活課題の解決に寄与したことも明らかとなった。

一方で、活動に参加する地域住民の固定化といった課題も把握できた。

## 2. 笠岡市六島 × 美作大学(有岡研究室)

### 趣旨・目的

これまでの調査活動により、島の子ども達は年々減少し、笠岡諸島内での、交流があまりない状態であることがわかった。また、島の住民も高齢化し減少の一途をたどっている。

そこで、子どもと親が一箇所に集まって交流することにより、子育てについて話したり、島の課題について考えたりする場を提供する。

また、他地域の事例やアンケート調査等を実施し、地域課題解決に寄与する。

### 主な取組

#### 住民への聞き取り調査・アンケート調査

地域住民に対して島の現状や課題、魅力などについて対面での聞き取りやアンケートにより調査した。

#### 伊吹島視察

香川県の伊吹島を視察し、島の教育、産業、医療、交通、地域づくりの状況等について調査した。その上で、六島との比較検討を行い、六島の活性化に向けた参考とした。

#### 成果報告会

上記調査を踏まえて、関係人口獲得のための情報発信など、六島の活性化に向けた提案を行った。

#### クリスマス会

島内外の親子の交流機会創出のため、クリスマス会を実施した。



### 成果

子育て集団の形成を支援するため、島で不足しているマンパワーを補うとともに、他地域の親子との交流を目的とした行事を企画実施し、島の子育て環境改善に貢献した。

また、他地域の事例調査や聞き取り・アンケート調査を通じて島の課題を抽出するとともに、SNSを活用した情報発信を行い、課題解決を支援した。



## 3. 真庭市二川地域

### × 岡山理科大学(黒田研究室・大藪研究室)

#### 趣旨・目的

真庭市に寄贈された10万冊の漫画を活用した「まんが館」(旧二川小学校)を起爆剤とした地域活性化を課題とし、それを実現するための仕組みと方策を提案する。

#### 主な取組

##### 施設の活用策の提案

地域を訪問し、地域の方や漫画を提供した企業の方からお話を伺い、施設の活用方法について学生が提案した。

##### 情報発信

集客のためのターゲティングとInstagramやフェイスブック等のSNSによるPRを行った。PR活動において、二川地域のキャラクターである「ふたにゃん」を使ったチラシを学生が作成し、真庭市HPやSNS等で発信した。

##### プレオープンイベントでの企画実施

プレオープンイベントにおいて、SDGsを意識したエコバックと缶バッジ作成のワークショップやスタンプラリー等を、学生が企画・実施した。

また、来場者へインタビューを行い、PRの効果を評価・検証し、そこで得た知見を今後の提案に反映させた。



#### 成果

施設活用の検討や情報発信、イベントの企画・実施に学生が参画することで、若者視点の新たな発想やアイデアを提供でき、集客につながった。

## 4. 矢掛町江良集落 × 岡山大学 (地域総合研究センター)

### 趣旨・目的

学生の視点から、食（地域で生産される農産物）を中心とした地域の資源・魅力を発掘し、特産品開発などの地域活性化策を検討する。

### 主な取組

#### 食と交流まちづくりの推進

梅収穫、稲刈り・田植えなどに学生が参加し、新しい特産品開発のアイデアを提供した。



#### まちづくりヒアリングの実施

学生が集落の方の話を聞き、まちづくりを始めた理由や楽しさを学ぶとともに、集落の発展策レポートを作成し、集落と共有した。



#### 滞在型課題解決プログラムの開発

学生が集落に滞在し、滞在中に地域の課題解決を手助けする滞在型課題解決プログラムを検討し、集落に提案した。

### 成果

本事業を通じて以下の点が明らかとなった。

#### ・食と交流まちづくりの推進

食と交流まちづくりを推進するには、学生がお客さんではなく、手伝いができる作業を探し、役割を担うことが重要である。

#### ・まちづくりヒアリングの実施

ヒアリングでは、集落では、食べきれないほどの食材が生産され、高齢者家族の中には、スーパーでの買い物の方が便利で楽だという状況を明らかにした。

一方で、学生たちは、都市部ではお米や野菜を必要としている人が増えていると分析した。生産地と消費地の双方で持続的なバランスが必要になっている。学生たちは、都市部が集落と連携した宅配サービスの可能性を提案した。

#### ・滞在型課題解決プログラムの開発

学生たちは江良集落の滞在方法を議論した。集落の滞在は大変魅力的なようだ。学生たちからは、トレーラーハウスでテレワークをしたいという意見があった。また、星空観察、音楽演奏、BBQ、合宿の提案があり、滞在中に草刈りや農作業を手伝いたいという意見もあった。

## 5. 久米南町下粕地区 × 中国学園大学(佐々木ゼミ)

### 趣旨・目的

孫世代の関係人口獲得に向けて、久米南町下粕地区の若者視点での魅力発見とITを活用した情報発信を行う。

### 主な取組

#### PR動画制作

学生がフィールドワークや農作業などを通じて下粕地区の魅力を体験し、それをもとに制作した動画をYouTubeで配信した。



#### 他地域事例の視察

久米南町の周辺地域(津山市)と関係人口増加での成功事例(鳥取県智頭町)を視察し、久米南町の関係人口増加とブランディングや活性化提案の参考とした。



#### 成果報告

学会等でこれまでの活動を発表し、2022年2月に開催された社会人基礎力グランプリ中国・四国大会で優秀賞を受賞した。また、中国学園大学からも、この取組に対して特別表彰を受けた。

### 成果

SNSや動画投稿サイト等、様々な媒体を活用してPR活動を行うことで、情報発信と関係人口獲得に寄与した。



## 6. 久米南町上弓削地区

### × 岡山大学(資源管理学ユニット)

#### 趣旨・目的

過疎化・高齢化が進行する中山間地域では、住民だけでは地域資源維持活動(草刈りや溝掃除等の農業インフラ、祭り等の文化的インフラの維持)などが困難になってきている。そのような中、地域と多様に関わる「関係人口」の重要性が高まってきている。

中山間地域で行われている多様な地域資源維持活動を、地域外の大学生の視点で再評価し、関係人口獲得に向けたリソースとしての活用方法策を検討する。また、それらのリソースのPRに向けた方策を検討する。

#### 主な取組

##### ため池管理の実態調査

地域内で行われている地域資源維持活動について、地域住民と大学生の両方の視点から、その重要性や緊急性を整理した。その結果に基づいて、ため池管理の実態と今後の管理体制を予測した資料作成を行った。



##### ドローンによる防除代行の現状調査

上弓削地区で行われているドローンによる防除(農薬散布)代行サービスの現状、水稲耕作者の評価と利用意向をアンケート調査により明らかにした。



##### PR動画作成

地域との交流事業に参加し、動画を撮影し、関係人口をプロモートするPR動画を作成した。

#### 成果

ため池管理の現状を把握し、将来的な担い手の数や維持に必要な労力を試算することで、地域住民がため池管理のあり方を検討する機会を提供した。

ドローンによる防除代行サービスの現状・課題を調査することで、中山間地域におけるドローン代行業の普及に関して、他地域でも参考となる知見を得ることができた。

## 7. 美咲町南和気地区 × 環太平洋大学(早田剛ゼミ)

### 趣旨・目的

南和気地区の課題は、地域の良さの認知度が低いことである。地元住民自らがSNSを活用して地域の良さを発信できるようにするため、南和気地区のSNS利用状況及び地域特色の調査を行い、大学生の視点からSNSで発信し、地元住民の方へ発信の影響を認知してもらおう。

### 主な取組

#### 住民へのアンケート調査

地域住民に対してSNSの利用状況や運動習慣の有無、地域の特色、大学生との交流に期待すること等についてアンケート調査を実施した。アンケート回収は229件であり、同意のあった222件を研究対象とした。

#### 南和気ウォークチャレンジの実施

アンケート結果を踏まえて、大学生と地域住民が触れ合う機会と運動機会の提供、SNSを活用した情報発信の実践を目的としたウォーキングイベントを学生と地域住民が協働して実施した。22チーム77名が参加した。



### 成果

ウォークチャレンジの開催により、地域住民へのスマートフォン及びSNSの利用普及、地域の魅力発信につながった。

また、大学生の視点やアイデアによってイベントを企画・開催したことで、地域イベントのマンネリ化という課題を解決した。